

# 農業の新しい技術

No. 758

(令和6年(2024年)6月)

分類コード 01-14

熊本県農林水産部

## 褐毛和種種雄牛「第一弦球」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室

担当者：福島敬太

### 研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

### 研究の成果

1. ばらの厚さと脂肪交雑に優れた褐毛和種種雄牛「第一弦球」を選抜した。

○血統

父 弦球  
(高 93)

祖父 第四弦光(高 88)

— 第四光重(高 82)

祖母 ゆうみ☆(育高 867)

— 光重球磨(繁殖 91)

母 しゅうぶ1  
(繁殖 22254)

祖父 第十六光重(育高 2)

— 光重E T(育高 1)

祖母 あしえいE T I(繁殖 20081) — 春玉波E T(繁殖 114)

○登録番号：繁殖 237

○生年月日：平成30年3月18日

○生産地：玉名市横島町(家畜改良センター熊本牧場)

2. 現場後代検定成績および育種価

○ばらの厚さは去勢、全体平均ともに 8.6cm と優れ、全体平均で歴代最高の成績となり、育種価でも 1.20(評価種雄牛 543 頭中 2 位)と極めて高い評価となった。

○脂肪交雑は去勢が BMSNo. 5.43、全体平均が 5.11 でいずれも歴代最高の成績となり、育種価でも 2.34(評価種雄牛 543 頭中 20 位)と高い評価となった。

○SBV<sup>\*</sup>は枝肉重量 1.13、脂肪交雑 1.96、ばらの厚さ 3.44、日齢枝肉重量 1.10 と肉量、肉質ともに改良効果が大きいと推定される。

※SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるよう加工したもの。

3. 特徴

本牛は、当時、ばらの厚さの育種価が県内上位 10%以内(現存牛 4,108 頭中)とトップクラスの母牛と肉質および増体能力に優れた「弦球」の交配により作出された。それぞれの遺伝的特徴を引き継ぎ、全体平均でばらの厚さが 8.6cm、脂肪交雑の BMSNo. が 5.11 といずれも歴代最高の成績であり、肉量、肉質両面の改良への貢献が期待される。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



第一弦球 (だいいちつるたま)

産子(去勢)枝肉写真・成績  
 格付:A-4 枝重:523.8kg  
 BMSNo.7 ロース:68cm<sup>2</sup>  
 ばら:9.2cm 母の父:光玉重ET

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMSNo.)	ロース 芯面積 (cm <sup>2</sup> )	ばらの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	歩留 基準値
去勢	14	517.9	5.43	58.7	8.6	3.8	72.9
雌	4	490.8	4.00	58.5	8.5	3.6	73.4
全体	18	511.9	5.11	58.7	8.6	3.7	73.0

表2 育種価(BV) (R6.3月評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量 (kg)	60	25.22	(0.91)
BMSNo.	20	2.34	(0.93)
ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	92	3.69	(0.90)
ばらの厚さ (cm)	2	1.20	(0.91)
皮下脂肪の厚さ (cm)	521	0.78	(0.93)
歩留基準値	201	0.31	(0.92)
日齢枝肉重量 (kg/日)	65	31.92	(0.92)

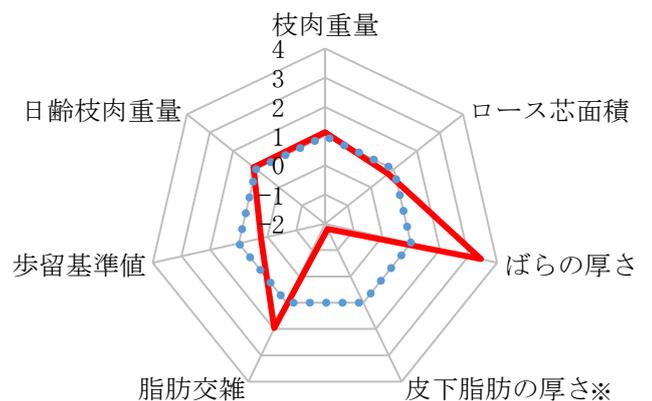


図1 SBV (標準化育種価)

※ 皮下脂肪は逆符号

後代頭数 30 頭(フィールド成績を含む)

順位は評価種雄牛 543 頭中の順位